

書評

谷本 伸弘 編著

肝の最新 MRI

栗林幸夫

(慶應義塾大学医学部放射線診断科教授)

このたび、谷本伸弘先生の編著による「肝の最新 MRI」が上梓された。肝の MRI、特に肝特異性 MRI 造影剤の臨床と研究に心血を注ぎ、優れた成果を挙げてきた谷本先生の姿を知る私としては、大きな喜びである。

谷本先生は、従来から腹部実質臓器の画像診断を専門領域として活躍してきたが、肝特異性 MRI 造影剤の研究に進むようになったのは、1990 年に Harvard 大学 Massachusetts General Hospital に留学し、彼の恩師となる David Stark 博士の薫陶を受けたのが契機となっている。留学から戻ってからも、網内系細胞に貪食される超常磁性酸化鉄製剤(SPIO)に関する一連の基礎的、臨床的研究を続け、生体顕微鏡を用いて SPIO の空間的分布が MRI の信号強度、特に T2* 緩和時間に影響を与えることを明らかにし、また Kupffer 細胞の組織内密度ばかりでなく、その機能が MRI 上の信号強度に変化を及ぼすことを証明した。これら一連の研究は、種々の病態にお

ける網内系細胞の動態を明らかにするとともに、肝腫瘍性病変の画像診断と鑑別診断に大きく貢献したことから、国内外から高く評価された。慶應義塾大学においても、優れた研究業績に対して与えられる医学部三四会北島賞を 2002 年に受賞している。

本書では、肝の画像診断における MRI の位置付けに始まり、撮像技術と臨床的有用性、ガドリニウム製剤による dynamic MRI、SPIO による造影 MRI、さらに最新の肝特異性造影剤に関する記述に到るまで、必要かつ十分な知識が豊富かつ鮮明な画像とともに網羅されている。各章を担当している執筆者の布陣をみても、臨床の第一線で活躍している著名な先生方ばかりであり、本書を上梓するに当たり多くの先生方のご協力が得られたのも谷本先生のためまぬ臨床・研究の努力とそれを知る交友の広さの賜と思われる。

本書は肝の MRI に関してわが国の粋を集めた必読の書であり、MRI の診療業務にかかわる放射線科医、診療放射線技師ばかりでなく、肝疾患の診療に携わる内科、外科の先生方にも広く読んで頂きたい秀逸な書であります。

(B5 判 216 頁 定価 7,665 円(本体 7,300 円+税 5%))
2004 年 金原出版 刊